

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年11月14日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-330220

[ST.10/C]:

[JP2002-330220]

出 願 人

Applicant(s):

中村 榮三

2003年 6月10日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3045293

【書類名】 特許願

【整理番号】 0020044-02

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61F 5/44
A61G 9/00

【発明者】

【住所又は居所】 茨城県水戸市栄町2丁目9番26号

【氏名】 中村 榮三

【特許出願人】

【識別番号】 501270586

【氏名又は名称】 中村 榮三

【代理人】

【識別番号】 100081927

【弁理士】

【氏名又は名称】 北條 和由

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 010917

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 介護用使い捨て便器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 身体の不自由な人の肛門から排泄される大便を受けて収納する介護用使い捨て便器であって、人の肛門（１７）の周りの臀部（１９）の間の溝（２０）に嵌まり込み、流動体を充填した棒状の肛門当部材（３）と、この肛門当部材（３）の中心を貫通するよう設けられ、同肛門当部材（３）が臀部（１９）の間の溝（２０）に嵌まり込んだとき肛門（１７）に一端が当てられる便通過孔（４）と、この肛門当部材（３）をその下から支持する可撓性シート状のパッド（８）と、前記肛門当部材（３）を臀部（１９）の間の溝（２０）に嵌まり込んだ状態を保持するためパッド（８）に設けられた固定手段と、前記肛門当部材（３）の便通過孔（４）に通じ、パッド（８）の中央の孔（９）の周りに上端縁が固定され、人の肛門（１７）から排泄される大便を前記便通過孔（４）とパッド（８）の孔（９）を通して内部に収納する袋体（１５）とを有することを特徴とする介護用使い捨て便器。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、体が弱った老人や病人であって、自分では排泄した大便を処理できない人が体に装着し、その人が大便を排泄したとき、介護者が清潔且つ簡単にその大便を使用することができるようにした介護用使い捨て便器に関する。

【０００２】

【従来技術】

体が弱った老人や病人であって、自分では排泄した大便を処理できない人（以下「重度要介護者」と言う。）を介護するとき、最も困難な作業の一つが大便の処理である。大便は悪臭を伴うだけでなく、体に付着すると、ただれや痒みの原因となり、重度要介護者に苦痛を与える原因にもなる。

【０００３】

従来、重度要介護者の大便の処理にあたっては、便意の意思表示が出来る重度

要介護者の場合であれば、ベッドで利用できる便器を使用して排泄させ、その後肛門の周りを拭いて清浄にしておくことにより大便の処理を行うことができる。しかし、便器はその都度処理しなければならず、介護の相当に面倒な部分である。

【 0 0 0 4 】

他方、便意の意思表示が出来ない重度要介護者では、使い捨ての手軽さの観点から、大便の処理のためいわゆる紙オムツのように、大便や尿を吸い取る形式の使い捨て方式のものも多く使用されている。しかし、いわゆる紙オムツの場合、排泄した大便が紙オムツと重度要介護者の皮膚の間に広がってしまい、皮膚の広範囲に大便が付着してしまうため、重度要介護者から紙おむつを取り外すときの処理がこれまた厄介である。

【 0 0 0 5 】

さらに重度要介護者の肛門の部分に袋を取り付け、その中に大便を排泄させて処理する形式の使い捨て便器も提案されている。しかし、肛門の周りは凹凸があり、使い捨て便器と肛門の周りの皮膚との間に大きな隙間が出来てしまう。特に軟便の場合にその隙間から便が漏れて、寝具や寝間着を汚してしまう等の問題も多く生じる。現に、ほぼ常時違和感なく装着が可能であり、しかも便が漏れにくい使い捨て便器はこれまで開発されて来なかったのが実状である。

【 0 0 0 6 】

【発明が解決しようとしている課題】

日本では、かつての先進国が経験したことの少ない程の少子・高齢化が進んでおり、重度要介護者の増加と介護要員の不足が懸念される。そのような状況の中で、重度要介護者に苦痛を与えずに、なお且つ手数をできるだけかけずに介護できる術が要請されている。

【 0 0 0 7 】

重度要介護者が排泄する大便の処理もその一つであり、多くの手数をかけずになお且つ重度要介護者に苦痛を与えず、どのようなときでも、重度要介護者が大便を排泄できるようにすることが必要である。そのためには、重度要介護者がほぼ常時装着できる使い捨て便器であって、漏れて肛門周り以外の部分に排泄した

大便が付着しないような使い捨て便器の開発が望まれるところである。

【0008】

本発明は、前記従来の重度要介護者が排泄する大便の処理における課題に鑑み、重度要介護者がほぼ常時違和感無く装着でき、しかも排泄した大便が漏れて肛門周り以外の部分にその大便が付着しないような介護用使い捨て便器を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本発明は、前記の目的を達成するため、重度要介護者の肛門17から排泄される大便を袋体15に導き入れるため、肛門17の周りの臀部19の間の溝20に嵌まり込む棒状の肛門当部材3を設け、この肛門当部材3の中央に設けた便通過孔4を通してその下の袋体15に便を排泄出来るようにした。そして、この肛門当部材3の内部には流動体を充填すると共に、その下の可撓性シート状のパッド8で肛門当部材3が臀部19の間の溝20に嵌まり込んだ状態を保持するようにし、肛門当部材3の自由な変形と復元力により、人の臀部19、その間の溝20の動きに自由に追従出来、なお且つ密着性を確保出来るようにしたものである。

【0010】

すなわち、本発明による介護用使い捨て便器は、人の肛門17の周りの臀部19の間の溝20に嵌まり込み、流動体を充填した棒状の肛門当部材3と、この肛門当部材3の中心を貫通するよう設けられ、同肛門当部材3が臀部19の間の溝20に嵌まり込んだとき肛門17に一端が当てられる便通過孔4と、この肛門当部材3をその下から支持する可撓性シート状のパッド8と、前記肛門当部材3を臀部19の間の溝20に嵌まり込んだ状態を保持するためパッド8に設けられた固定手段と、前記肛門当部材3の便通過孔4に通じ、パッド8の中央の孔9の周りに上端縁が固定され、人の肛門17から排泄される大便を前記便通過孔4とパッド8の孔9を通して内部に収納する袋体15とを有するものである。

【0011】

このような介護用使い捨て便器において、人の肛門17から排泄される大便を袋体15に案内する便通過孔4を有する肛門当部材3は、その内部に流動体を充

填しており、自由に変形し、且つ外力を除くと元の形に復元しやすい。これにより、この肛門当部材 3 を人の肛門 1 7 の周りの臀部 1 9 の間の溝 2 0 に嵌め込んだ状態で、その下の可撓性シート状のパッド 8 で保持することにより、肛門当部材 3 は前記臀部 1 9 の間の溝 2 0 の中で或る程度自由に變形し、人の臀部 1 9、その間の溝 2 0 の動きに自由に追従出来る。このため、便通過孔 4 の上端が人の肛門 1 7 から容易にずれない。また、肛門当部材 3 が自由に變形し、且つ外力を除くと元の形に復元しやすいことにより、肛門当部材 3 が臀部 1 9 の間の溝 2 0 に完全に密着し、便の漏れが防止出来る。そしてこの介護用使い捨て便器は、常に装着して重度要介護者の肛門から排泄された大便を袋体 1 5 に収納して処理でき、大便を入れた使い捨て便器はそのまま廃棄できるので、介護者の大便の処理が大幅に楽になる。

【 0 0 1 2 】

【発明の実施の形態】

次に、図面を参照しながら、本発明の実施の形態について、具体的且つ詳細に説明する。

図 1 に本発明の一実施形態による介護用使い捨て便器の構成部材を示す。図 2 ～図 4 は、これらの構成部材を一体として、介護用使い捨て便器を構成した状態を示す。これらの図に示す通り、図示の介護用使い捨て便器は、肛門当部材 3 とパッド 8 と袋体 1 5 とを有する。

【 0 0 1 3 】

肛門当部材 3 は、直径 3 0 ～ 4 0 m m、長さ 8 0 ～ 1 0 0 m m 程度の棒状の部材で、伸縮自在の材料からなる強度のある伸縮性と弾性を有する袋に流動体を充填してなる。袋の材料は、人の肌に当たっても強い刺激を与えず、アレルギー等も起こさず、且つ気密性と耐水性を有する軟質樹脂、ゴム等の部材を使用する。また、その袋に充填する流動体としては、空気等の気体、水や油液等の液体、ペースト状のもの、粉体等をあげることが出来る。いずれにしても袋の中には、肛門当部材 3 に外力を加えたとき、その変形を許容し、外力を取り去ると、袋の弾力により元の形状に復元するよう適当な圧力で流動体を充填する。

【 0 0 1 4 】

この肛門当部材 3 の中央には、人の肛門から排泄した大便を通過する便通過孔 4 が設けられている。この便通過孔 4 には、円筒形の便通過パイプ 1 を嵌め込む。この便通過パイプ 1 は上端にフランジ 2 を有し、その下に漏斗状のパイプ部 5 を一体の設けたものである。この便通過パイプ 1 は、肛門当部材 3 の外皮である袋より変形しにくい剛性のある部材で厚手に形成する。これは、肛門当部材 3 が変形した場合でも、便通過パイプ 1 とそれを嵌め込んだ便通過孔 4 の部分は大きく変形せず、大便が通過する通路を確保出来るようにするものである。便通過パイプ 1 を使用しない場合は、肛門当部材 3 の外皮である袋の便通過孔 4 の部分のみ肛門当部材 3 の外皮である袋の他の部分より変形しにくいよう厚手に形成する。

【 0 0 1 5 】

パッド 8 は厚さ 1 mm 程度の可撓性のシートからなり、一方に長い楕円形状をしている。このパッド 8 の中央には、大便を通過させるための孔 9 を有する。このパッド 8 もまた、人の肛門の周りの皮膚に当てて使用するため、人の肌に当たっても強い刺激を与えず、アレルギー等も起こさない軟質樹脂或いは吸湿性を有する繊維等が好ましい。

【 0 0 1 6 】

このパッド 8 の中央には前述した棒状の肛門当部材 3 が載せられ、固定される。より具体的には、肛門当部材 3 はその長手方向がパッド 8 の長軸方向と一致するように固定される。この状態で、肛門当部材 3 の便通過孔 4 の下端開口部はパッド 8 の孔 9 と上下に一致する。

パッド 8 の長軸方向の両端には、そのパッド 8 を人のお尻に取り付けるための固定手段である紐 1 1 が取り付けられている。

【 0 0 1 7 】

このパッド 8 の下面の前記孔 9 の周囲に、袋体 1 5 の上縁が一体に取り付けられ、孔 9 はこの袋体 1 5 の内部に通じている。この袋体 1 5 は、ゴムや合成樹脂等のように、伸縮性と弾力があり、変形しやすく、且つ水密性を有するものからなる。

【 0 0 1 8 】

図 4 から明らかな通り、図示の例の袋体 1 5 は、外袋 1 3 と内袋 1 4 との二重構造になっている。外袋 1 3 は、大便を収納しておく袋であり、完全に閉じられた袋状であり、その上縁は前記パット 8 の孔 9 の周の部分と一体となっている。その内側の内袋 1 4 は、パット 8 の孔 9 側と一体となった上縁側が広く、下端が狭くなった漏斗状のもので、下端は外袋 1 3 の中で開いている。

【 0 0 1 9 】

このような介護用使い捨て便器の使用状態を図 5 に示す。この図 5 に示すように、肛門当部材 3 を人の肛門 1 7 の周りの臀部 1 9 の間の溝 2 0 に嵌め込み、その肛門当部材 3 の中央の便通過孔 4 の上端を人の肛門 1 7 に当てる。この状態で紐 1 1、1 1 を人のお尻の後ろと太股の両側に通し、これらの紐 1 1、1 1 を結んでパッド 8 を肛門 1 8 の周りの皮膚に当てて固定する。この状態で、介護用使い捨て便器を重度介護者のお尻に装着しておく。

【 0 0 2 0 】

この装着状態において、重度要介護者の肛門 1 7 から大便が排泄されると、この肛門 1 7 の周りの溝 2 0 に嵌め込まれた棒状の肛門当部材 3 の便通過孔 4 を通り、パット 8 の孔 9 から袋体 1 5 に大便が排泄される。大便はまず袋体 1 5 の内袋 1 4 を通り、その下端から抜けて外袋 1 3 に入る。内袋 1 4 は漏斗状であり、下端が上端より狭まっているので逆流防止の役目を果たす。

【 0 0 2 1 】

肛門当部材 3 は、その中に流動体が充填されていることにより、重度要介護者の動きに応じて或る程度自由に変形すると共に、復元力を有する。このため、臀部 1 9 の間の溝 2 0 に嵌まり込んだその溝 2 0 に密着する。また、その肛門当部材 3 の便通過孔 4 の上端が肛門 1 7 からずれることはない。

【 0 0 2 2 】

【発明の効果】

以上説明した通り、本発明による介護用使い捨て便器では、常にそれを重度要介護者が装着し、重度要介護者の肛門から排泄された大便を袋体 1 5 に収納して処理できる。このとき、肛門当部材 3 は、その中に流動体が充填されていることにより、重度要介護者の動きに応じて変形すると共に、復元力を有するため、良

好な密着性とずれ防止が図られ、大便の漏れが生じない。さらに、大便を入れた使い捨て便器はそのまま廃棄できるので、介護者の大便の処理が大幅に楽になる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施形態による介護用使い捨て便器の構成部材を分解して示した分解斜視図である。

【図 2】

同実施形態による介護用使い捨て便器を示す斜視図である。

【図 3】

同実施形態による介護用使い捨て便器を示す平面図である。

【図 4】

図 3 の A - A 線断面図である。

【図 5】

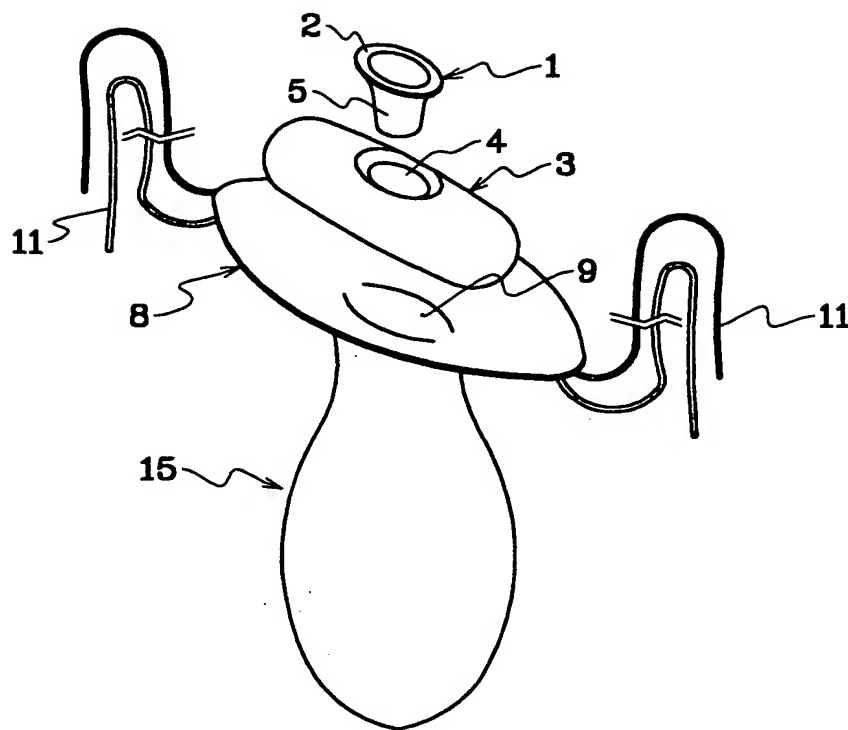
同実施形態による介護用使い捨て便器を人のお尻に装着した状態の背面図である。

【符号の説明】

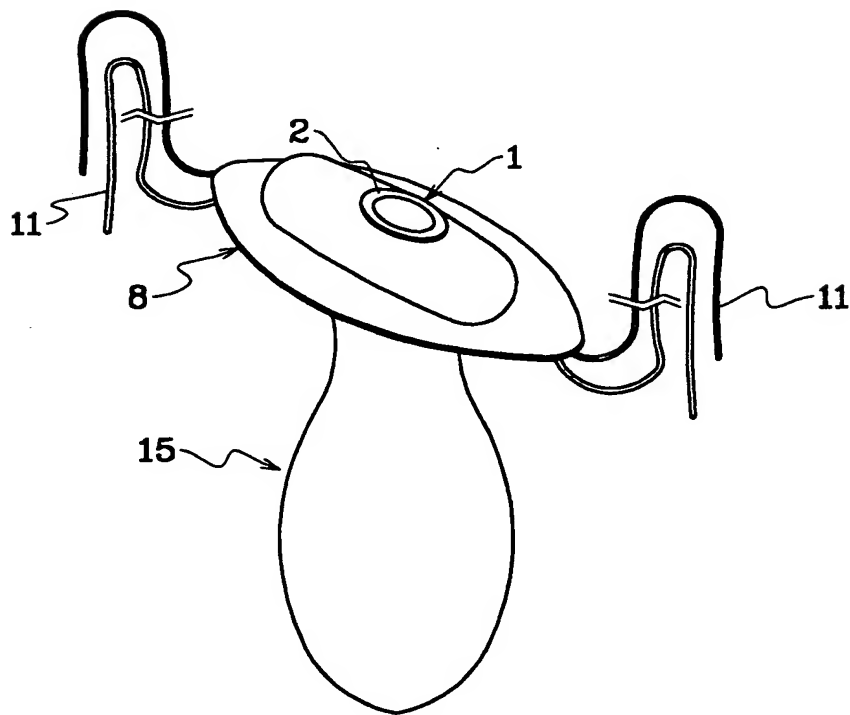
- 3 肛門当部材
- 4 肛門当部材の便通過孔
- 8 パッド
- 9 パッドの孔
- 11 パッドの紐
- 15 袋体
- 17 人の肛門
- 19 人の臀部
- 20 臀部の間の溝

【書類名】 図 面

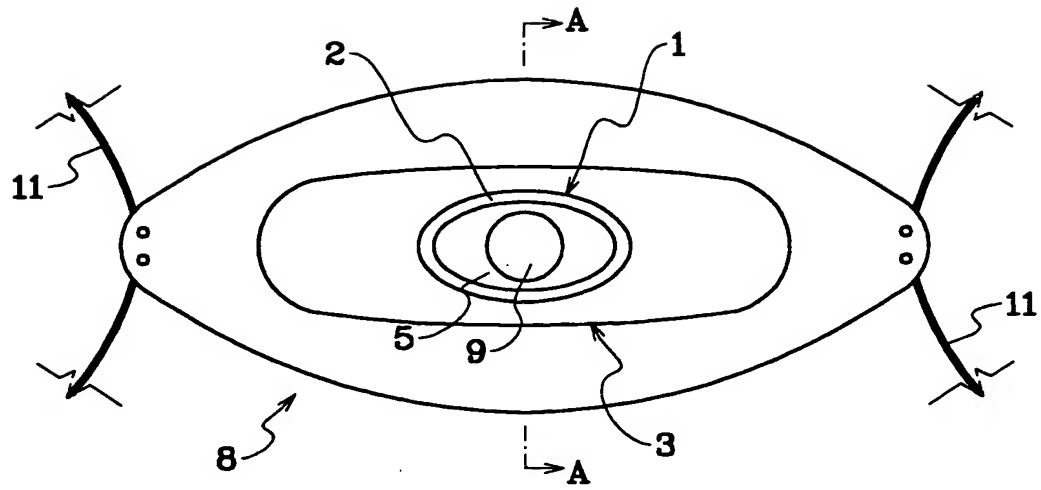
【図 1】



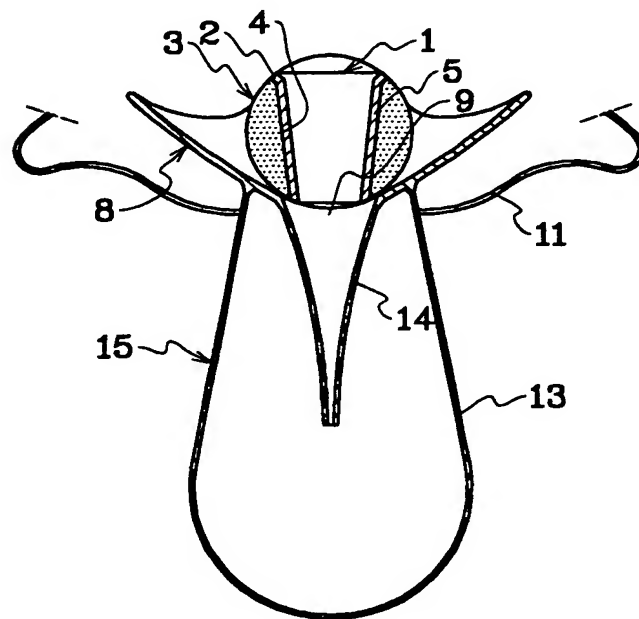
【図 2】



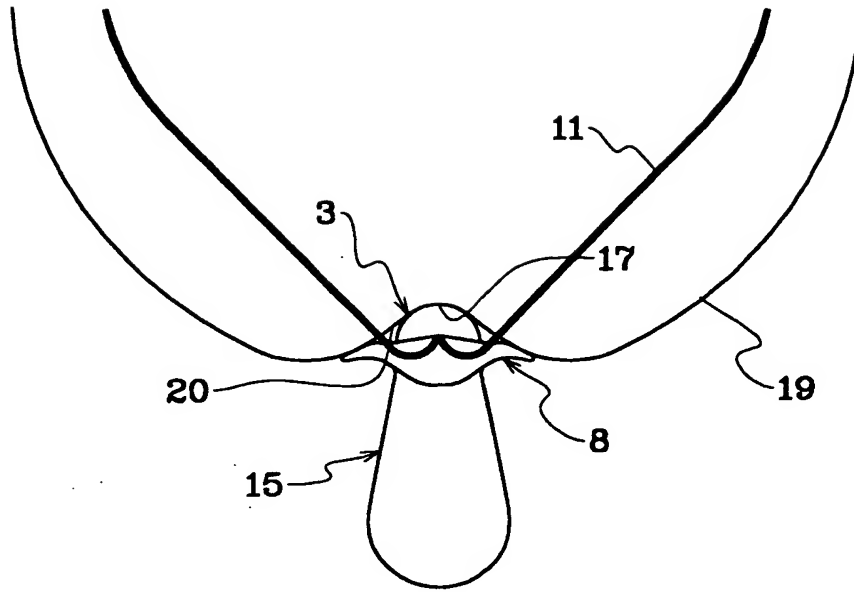
【図3】



【図4】



【图 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 重度要介護者がほぼ常時違和感無く装着でき、しかも排泄した大便が漏れて肛門周り以外の部分にその大便が付着しないような介護用使い捨て便器を得る。

【解決手段】 介護用使い捨て便器は、人の肛門 1 7 の周りの臀部 1 9 の間の溝 2 0 に嵌まり込み、流動体を充填した棒状の肛門当部材 3 と、この肛門当部材 3 の中心を貫通するよう設けられ、同肛門当部材 3 が臀部 1 9 の間の溝 2 0 に嵌まり込んだとき肛門 1 7 に一端が当てられる便通過孔 4 と、この肛門当部材 3 をその下から支持する可撓性シート状のパッド 8 と、前記肛門当部材 3 を臀部 1 9 の間の溝 2 0 に嵌まり込んだ状態を保持するためパッド 8 に設けられた固定手段と、前記肛門当部材 3 の便通過孔 4 に通じ、パッド 8 の中央の孔 9 の周りに上端縁が固定され、人の肛門 1 7 から排泄される大便を前記便通過孔 4 とパッド 8 の孔 9 を通して内部に収納する袋体 1 5 とを有する。

【選択図】 図 1

認 定 ・ 付 加 情 報

特許出願の番号	特願 2 0 0 2 - 3 3 0 2 2 0
受付番号	5 0 2 0 1 7 1 7 9 6 4
書類名	特許願
担当官	第五担当上席 0 0 9 4
作成日	平成 1 4 年 1 1 月 1 5 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】	平成14年11月14日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [5 0 1 2 7 0 5 8 6]

1. 変更年月日	2 0 0 1 年 7 月 6 日
[変更理由]	新規登録
住 所	茨城県水戸市栄町 2 丁目 9 番 2 6 号
氏 名	中村 榮三